



ABC CSR REPORT 2015

CSR活動報告 2015

ボクが
案内するんだッー!!



CSR方針

朝日放送は、高い公共性をもち、地域に根ざす放送会社としての社会的責任を果たすため、以下の方針のもと、社会貢献活動を行います。

- 1 市民生活の保全と発展に寄与する放送番組と事業を提供します。
- 2 地域に根ざした活動を通じ、地域社会の活性化に貢献します。
- 3 地球環境や自然に配慮し、その啓発活動にも積極的に取り組みます。
- 4 未来を託す子どもたちへの支援に尽力します。
- 5 社会に開かれた企業を目指し、放送事業への理解を促進します。



創立65周年 地元関西と歩む、 次の時代へ

朝日放送は、高い公共性を持つ放送局として、社会的責任を果たすため、様々な社会貢献活動を積極的に行っています。同時に、関西に基盤を持つ企業として、地域の発展にも貢献したいと考えています。

この「活動報告 2015」は、当社が1年間、取り組んできたCSR活動の足跡です。

放送を通じた活動のみならず、イベント、出前授業、地球温暖化対策など、様々な取り組みに力を入れています。

2016年、当社は創立65周年を迎えました。

数々の名番組とともに築いてきた歴史を、さらに輝かしい未来へつなげていくためにも、視聴者の皆様、株主様、地元関西の人々、従業員をはじめとする全てのステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを絶やさず、培った信頼をエネルギーとして、限りなく成長していく100年企業を目指していきます。



朝日放送株式会社
代表取締役社長
わきさか さとし
脇阪 聡史

エビシーが案内するシー!



朝日放送のキャラクター“エビシー”

- ▶ 朝日放送(ABC)本社前の堂島川近辺で目撃されたUMA(未確認動物)
- ▶ 朝日放送のテレビ・ラジオの電波が好きで本社近辺に出現

環境に配慮し、啓発活動に取り組む

地球環境や自然に配慮し、 その啓発活動にも 積極的に取り組みます。

「ガラスの地球を救え」キャンペーン

since2000



「ガラスの地球を救え」

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫さんが最後に残したメッセージです。
「これ以上人間の手によって、大切な空気や緑、そして青い海を汚してはいけない。
次世代を担う子どもたちの夢を守らなければいけない」
という思いが込められています。

朝日放送は、2000年からこのメッセージを元に「ガラスの地球を救え」キャンペーンをスタートしました。環境保全の継続的実現を図り、地球にやさしい放送局を目指しています。

「ガラスの地球を救え」キャンペーン ①

スペシャル番組
「ワンダーアース
～地球のチカラ、生き物のチカラ～」



「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2003年度から年一回、放送し続けてきた特別番組は、13回目を迎えました。

2015年度は、地球が持っている「チカラ」や、生き物の「生命をつなぐチカラ」をテーマに、自然界の不思議や謎＝ワンダーアースを探り、地球や自然のすごさを感じる4時間のスペシャル生番組を、4月29日(水・祝)午後2時から放送しました。

番組は<アイスランドで感じる!地球のチカラ><極限世界で生きる!深海生物のチカラ>など、7つのコーナーで構成され、専門家らと一緒に“地球の奇跡”を探りました。



「みんなの木」活動

「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2007年にスタートした「みんなの木」活動は、次の世代を担う子どもたちに、自然の大切さ、命の尊さを知ってもらい、未来の環境について考えてもらう機会として誕生しました。

2012年までは、小学校や幼稚園で自然環境の特別授業と記念の植樹体験を計39回行い、2013年春からは自然公園や里山などに場所を移して、植物の観察会や工作イベントなど身近な自然環境に触れる催しを行っています。

2015年度は、1970年に開催された大阪万博終了後に整備された「万博記念公園」にて、



「ABCラジオまつり(2015年11月15日(日))」
 「ABCラジオスプリングフェスタ(2016年3月13日(日))」に合わせて開催。人工地盤の上にさまざまな樹木や草花を植え、自然の森を再生した「自然文化園」を、ABCラジオのパーソナリティの皆さんと歩きました。

高石送信所太陽光発電

2013年11月にスタートした大阪府高石市の高石ラジオ送信所の太陽光発電事業は、3年目に入りました。

約2万9千平方メートルの敷地に約1万枚の太陽光パネルを設置しており、出力は1990kWで、発電した電気を関西電力に売っています。

クリーンな電力を創出することを通じて、環境に配慮し、地球にやさしい放送局を目指しています。

参考 2015年5月実績

太陽光発電電力
332,370kwh

朝日放送本社屋の使用電力
1,167,996kwh

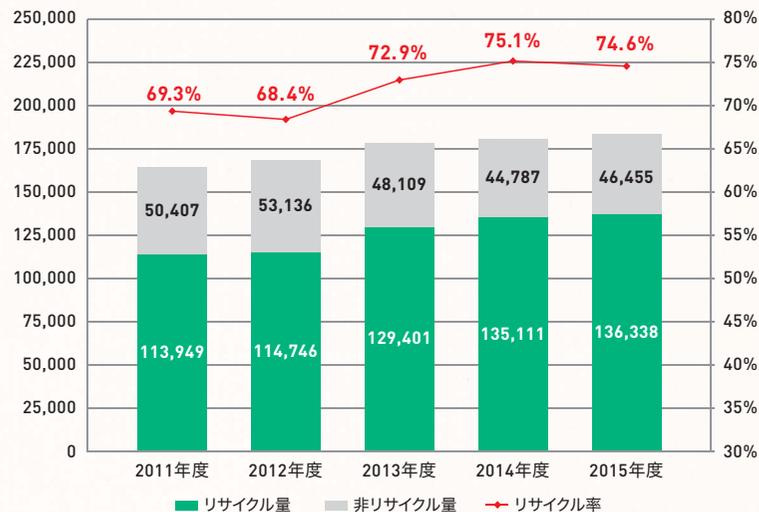
本社屋の電力の約28%を高石送信所の太陽光発電でまかなった計算になります



リサイクルの促進

社屋全体(本社・アネックスビル)で、廃棄物のリサイクル促進に取り組んでいます。過去3年間(2013~2015年度)のリサイクル率は70%を超え、「廃棄物の減量推進、適正処理を継続的に実施している」として、2015年度の大阪市環境局長表彰を受けました。

社屋全体 廃棄量 (アネックスビル含む。外構除く。) 年度別<通期>(2011年度~2015年度)



放送・事業を通じて、社会に役立つ

ニュースやドキュメンタリーをはじめ、
各種放送番組を通じて、
社会が抱える様々な課題についての
事象や知見をわかりやすく伝えます。



ドキュメンタリー作品
「この子のために～命をつなぐ特別養子縁組～」

2015年10月、ドキュメンタリー作品『この子のために～命をつなぐ特別養子縁組～』(2014年11月25日放送)が、第21回 PROGRESS賞※最優秀賞を受賞しました。

特別養子縁組の制度が出来て26年(放送当時)。

番組は、養子を斡旋するNPOの寮に密着し、生後間もない我が子を養子に出さざるをえ

ない母親と、他人の子でも育てたいという夫婦を取材するとともに、大人になって自らが養子であることを知らされた女性が実の母親を探す姿を取材しました。

命を取り巻くそれぞれの思いを描くことで、日本の特別養子縁組制度の実情を伝え、制度の問題点を浮き彫りにしました。



※PROGRESS賞:
テレビ朝日系列24社の番組審議会委員の発意により、放送番組のより一層の質的向上・系列各局の制作力の向上を資するものとして1995年に制定された、番組審議会委員が推奨する最高の賞。



エピソードが
聞イシー
①



ふじた たかひさ
藤田 貴久プロデューサーに聞いたシ。

「虐待など、子どもをめぐる事件が後を絶ちません。こういった状況の中で、子どもの命の尊さを考える番組を制作したいと考えました。番組では、生まれた子どもの命、育みをテーマに、子どもを取り囲む家庭環境のあり方を問いかけました。」



ABC創立65周年企画 「超高齢社会」

2015年に“団塊の世代”の全てが高齢者(65歳)に入りました。そして朝日放送は、2016年11月に65歳を迎えます。

夕方のニュース番組「キャスト」では、2014年2月から創立65周年企画として、「超高齢社会」をテーマにしたシリーズ企画を放送しています。



2015年度は、“介護問題”や“医療格差”から、“まちづくり”や“老いと向きあい方”などを問いかける企画を1年間で15本を放送し、シリーズ開始からの実績累計は24本となりました。

「超高齢社会」ラインナップ(2015年度)

ニュース番組「キャスト(月～金 夕方4時58分～)」で放送

6月	24日	「高齢化する泉北ニュータウン ～最期までこの街で生き抜くためのまちづくり～」
	29日	「10分で学ぶ老い支度 ①～買い物編～」
7月	31日	「日本一介護保険料が高い村 ～奈良・天川村の現実～」
8月	3日	「認知症と生きる」
	11日	「在宅歯科医 ～最後まで自分の口で食べるために～」
9月	21日	「平均年齢73歳のケーブルテレビ局 ～高齢化のまちを支える～」
	25日	「10分で学ぶ老い支度 ②～住まい編～」
10月	5日	「過疎のまちに外国人観光客を呼び込め! ～インバウンドツーリズムの現状と課題～」
	14日	「10分で学ぶ老い支度 ③～運動編～」
11月	10日	「介護の本音をナマで伝える ～夫婦二人三脚の挑戦～」
1月	6日	「介護離職をゼロにするには? ～安倍総理への提言～」
	25日	「局地的超高齢化する団地群 ～住民の孤立を防ぐには～」
2月	4日	「育児と介護のダブルケア ～晩婚化・晩産化の背景～」

災害・防災報道

災害発生時の報道を迅速に行い、防災・減災に役立つ情報伝達を適切に実施するとともに、過去の災害などの知見を活用し、啓発活動にも取り組んでいます。

2015年11月、紀伊半島2箇所に映像無線(マイクロ波)中継施設を整備しました。

増大傾向にある台風被害や、近い将来に発生が予想されている南海トラフ沖地震に備え、自然災害の頻度が高い紀伊半島で迅速に報道・生中継するためです。

関西の民放で、和歌山南部全域でのヘリ中継が可能な無線(マイクロ波)を用いた自社設備もっているのは当社だけです。中継施設には、災害による停電時でも、最低3日間運用可能な発電機を設置しています。

この中継施設の整備により、災害時に電話やケーブルなどの有線回線が断線した場合でも、映像を安定的に送り出し、状況を迅速に伝えることが可能となりました。



字幕・解説放送

聴覚に障害のある方や高齢者の皆様に、テレビ番組をより楽しんでいただけるように、放送番組の音声情報を、文字情報として画面上に表示する「字幕放送」を一部の番組で実施しています。録画番組だけでなく、ニュース・スポーツなど、一部の生放送番組においてもリアルタイムに文字情報の表示を行って、「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」の普及目標の対象となる7時から24時の放送番組における字幕放送の割合は、2015年度までに98.8%、総放送時間に占める字幕放送時間の割合は66.7%に達しました。2015年度には、

新たに土曜日朝の「朝だ！生です 旅サラダ」と、平日午後「太陽と緑の健やかタイム」に字幕付与を開始しました。

また、目の不自由な方にもテレビを楽しんでもらうべく、状況や登場する人々の表情などを副音声で説明する「解説放送」も実施しています。一部のドラマ、バラエティのほか、2015年度は、プロ野球中継でも2回実施し、普及目標対象時間内で10.9%、総放送時間で4.2%になりました。



「ピンクリボン運動」の推進

「ピンクリボン」とは、乳がん啓発活動を表す世界共通のシンボルマークです。

当社は、2004年より、「ピンクリボン スマイルウォーク神戸」(主催：日本対がん協会、朝日新聞社、朝日放送、神戸新聞社 ※神戸新聞は2011年から)の開催をお手伝いしています。

2015年度は、11月7日(土)に、兵庫県神戸市の東遊園地で行われ、10キロ、5キロコースの「乳がん啓発ウォーク」に、およそ2,900名が参加しました。ステージ上の啓発トークのほか、検診車での乳がん検診(要事前申込・抽選制)や、各自治体での検診情報の提供、賛同する協賛各社によるブース出展など、さまざまな催しを開催しました。

イベントを通じて、乳がんのことを理解し、命の大切さを共感し、検診への一歩を踏み出してもらえるよう、これからも応援を続けます。



画像提供：日本対がん協会

積極的に地域に参画・貢献し、より開かれた放送局を目指す

地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、
イベントなどを通じて、
地域の活性化と賑わい創出のための
取り組みを進めます。



ABC感謝祭2015 マイドほたるまち!

「ABC感謝祭 マイドほたるまち!」は、『あえる・ふれる・つながる』を合言葉に、朝日放送本社のある大阪市福島区「ほたるまち」を舞台に、テレビ・ラジオの番組が総力を挙げて来場者をおもてなしするというイベントです。

3回目となった今回は、5月5日(火・祝)、6日(水・休)の2日間開催しました。

社屋内のスタジオで、本物の番組セットを使って写真を撮ることができる「6博」(“6チャンネルの博覧会”の意 入場料500円)や、ラジオの公開生放送、縁日などを楽しんでいただきました。また、隣接する堂島リバーフォーラムで「マイドモール」を開催。人気番組と企業がコラボしたイベント限定メニューが食べられる屋台が人気を呼びました。



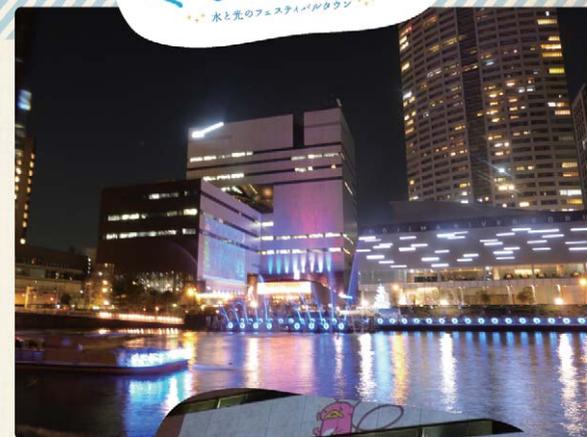
中之島ウエスト 冬ものがたり

中之島ウエスト
冬ものがたり2015
水と光のフェスティバルタウン

当社は、社屋近隣(中之島西エリア)の活性化とイメージアップにより、地域価値の向上に資することを目指すイベント「中之島 冬ものがたり(主催:中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会)」に参加しています。

このイベントは2012年冬にスタートし、2015年度は12月11日~25日の15日間行われました。

2015年度のメインプログラムは、朝日放送社屋の南側正面の堂島川で開催した「中之島ウォーターファンタジア」(大噴水ライトアップ)と「ひかりの実」(光る小オブジェに笑顔を描き街路樹などに飾りつけるスマイルアート)で、当社は、メインプログラム会場に直結するABCリバーデッキで、「エビシー」を使ったオリジナル企画「エビシーのスマイルクリスマス」(切り絵とCGの壁画アート)を上映し、イベントの盛り上げに貢献しました。



創立65周年記念

「ABCラジオまつり」「ABCラジオスプリングフェスタ」

朝日放送では、ラジオのリスナーのみなさんに感謝して、春と秋の年2回、お祭りイベントを開催しています。生放送や生ライブのほか、物販・飲食ブースが並び、盛りだくさんのお祭りで、2015年度は、創立65周年記念として、それぞれがパワーアップしたイベントとなりました。

「ABCラジオまつり2015」は、11月15日(日)に、万博記念公園で開催。たくさんのお出演者が大集合し、2つのステージを使って、5時間に及び生放送や、音楽を中心したライブを開催し、4万5877人のみなさんに、ご来場いただきました。

「ABCラジオスプリングフェスタ2016」は、3月13日(日)に、同じく万博記念公園で開催しました。生放送などに加え、巨大キャンパス(幅4.5メートル×高さ1.8メートル)に、子どもと大人が



創立65周年記念
ABC
ラジオまつり2015



一緒になって思い思いに、「エビシー」を描く『みんなでライブペイント“エビシー描いてシー!”』を実施。このライブペイントは、関西で活躍する若手アーティストのみなさんにサポートしていただきました。スプリングフェスタは、3万4041人のみなさんに、ご来場いただきました。



創立65周年記念
スプリングフェスタ
2016

エビシーが
聞くシー
②



アナウンサーによる地域貢献

2010年度から社屋近隣の社会福祉施設を中心に、アナウンサー達が絵本の朗読や実況の実演、関連イベントの司会進行のお手伝いなどを行っています。

2015年度は1月と2月にあわせて3回実施し、通算で34回となりました。

こうした活動を通じ、地域とのコミュニケーションを図ることで、放送への理解を深めて頂き、エリアとの親和性を高めていきたいと考えています。



あさお たけし アップ
淺尾 武史 OPEN↑推進部長に聞いたシ。

「当社では、これからも、さまざまな機会に視聴者・リスナーのみなさん、地元関西のみなさんとのふれあい・交流を大切に、信頼あるローカルメディアとしての役割を果たしていきます。同時に、地域の賑わいを創出して、皆さんに放送事業をもっと身近に感じていただける催しを行っていきたく考えています。」



こどもの未来を考え、次世代育成に取り組む

未来を託す子どもたちへの 支援に尽力し、 次世代の育成に取り組めます。

ABC子ども未来プロジェクト since2007

ABC 子ども未来プロジェクト

「ABC子ども未来宣言」

朝日放送では、全社横断的な組織として、「子ども未来プロジェクト」を2007年1月に立ち上げました。

「いじめ」「虐待」「自殺」「犯罪の若年化」など、子どもを巡る環境は厳しいものがあります。子どもたちがさらされている危機は、私たちの未来が摘み取られていることと同じであり、そんな子どもたちが将来に対して、明るい希望をもってもらうため、「子ども未来プロジェクト」では、番組やイベントを通して、視聴者の皆さまと共に考えるコンテンツを発信し続けていきます。

ABC子ども未来プロジェクト ①

特別番組「東京タイマー2020」

2016年2月13日、20日、27日 深夜0:45~1:15放送



2020年に開催される東京オリンピック。多くのアスリートたちが地元開催のオリンピック出場を目指して努力を重ねています。今はまだその名が知られていなくとも、これから間違いなく代表の座を争うであろうアスリートたち。彼らにとって、東京オリンピックへのカウントダウンはすでに始まっています。

「東京タイマー2020」は、昨年度からスタートした、人生時計のタイマーを東京オリンピックに合わせた若いアスリートたちを紹介し、同世代の視聴者にもエールを送る、年に一度の特別番組です。

「東京タイマー2020」ラインナップ(2015年度)

第一弾(2月13日OA)

「7人制ラグビー」日本代表候補、同志社大学3年生の松井千士(ちひと)選手を北京五輪の銅メダリスト・陸上の朝原宣治が取材。

第二弾(2月20日OA)

柔道界の次世代エース、神港学園高校3年の阿部一二三選手を元バレーボール全日本女子代表の高橋みゆきが取材。

第三弾(2月27日OA)

京都府大山崎町で育ったフェンシング界期待の中学2年生、寺山珠樹選手をロンドン五輪・元体操女子日本代表の田中理恵が取材。



特別番組「～激論!教育・子育て～考えるオトナ3」

2016年3月4日(金) 深夜1:34～3:34放送

学校・地域・家庭… 子どもたちにとって問題の尽きない今日の日本。

大人たちが考えるべき様々な問題をディスカッションする、年に一度の特別番組「～激論!教育・子育て～考えるオトナ」は、2013年度に始まりました。

子育て経験者や子育て真っ最中のタレント、現役の小学校校長、教育学やスポーツの



専門家など、教育や子育てに問題意識を持つ10名のパネラーが、学校の安全、塾、いじめなど、子どもたちを取り巻く問題について激論を交わすシリーズ番組で、3回目の放送となった今回は、「オトナは子どもたちの『いじめ』に気付けるのか?」「オトナの写し鏡?自信も希望も欲もない若者たち」「『学び』と『遊び』の場・学校 必要なのは安全か?達成感か?」「学校の勉強だけじゃダメなの?塾に頼る学校」の4つのテーマを元に討論しました。



「がんばれ!元気ッス」

毎週土曜日 午後5:55～6:00放送

がんばれ!
元気ッス

「がんばれ!元気ッス」は、2009年春から放送しているミニ番組です。

テーマは「おとなから こどもたちへのメッセージ」。

タレント、俳優、スポーツ選手、アーティストなど各界の著名人が1ヶ月に1人のマンズリースタイルで登場し、自らの子どもの頃のエピソードや我が子とのふれあい方など、テ

レビを観ている「今の子どもたち」に教えてあげたいこと、知ってもらいたいことを語ります。



写真:
武田和歌子アナウンサー
(ナレーション)



小中学生!夏休み社屋見学会

社屋を現在の大阪市福島区に移した2008年から毎年、夏休みに、小中学生を対象とした社屋見学会を開催しています。

いつも見ているテレビや、いつも聞いているラジオの番組が、どのように作られて、放送されているのか…。将来を夢見る子どもたちに、朝日放送の社屋を見て放送局をより身近に感じていただければと願っています。

2015年度は、応募総数1381人から選ばれた142人が参加しました。



見学会では、施設を見学するだけではなく、

ラジオスタジオでの番組作り、そして「おはよう朝日です」のテレビスタジオでは、おきたくんやアナウンサーと一緒に子どもたちが司会者、リポーター、気象予報士、カメラマンになっての番組収録など、実際に放送局の仕事がたくさん体験しました。

エビシーが
聞イシー

③

おおの さとみ
大野聡美 アナウンサーに聞いたッ。

私は今回、番組収録体験の司会役をして、子どもたちと一緒に「おはよう朝日です 夏休みです」という2分位の番組を作りました。大きなカメラや珍しいスタジオセットに、驚いたり、はしゃいだりする子どもたちを見ていると、もっともっと、テレビを好きになってもらいたい、朝日放送を好きになってもらいたい、と改めて思いました。「将来アナウンサーになりたい」と言ってくれた子もいて、参加した子どもたちの中から、朝日放送で、いつか一緒に働く子も出てくるかも、と思うと楽しみです。



ABC出前授業 エビシー教室

2011年から、エリア内(近畿2府4県)の小学校を、朝日放送のディレクターやカメラマンが訪問して、出前授業を行っています。2015年6月に、当社のキャラクターとして「エビシー」が誕生したため、名前を「ABC出前授業 エビシー教室」に改め、活動を続けています。

対象は、原則として、学校のカリキュラムでメディアの授業がある小学校高学年ですが、小学校以外の応募も可能です。

授業では、持参した本物の放送用カメラやマイク等に、実際に触れてもらったり、ニュースキャスター体験をしてもらうなど、より身近に放送局を体感していただけます。

参加した子どもたちからは、「はじめて本物のカメラを見ることができ、重くてびっくりした」「ニュースを読むとき、とても緊張したが嬉しかった!」「裏方さんは大変なんだなと思った」などの声が寄せられました。

エビシー教室は、2015年度は21回、過去5年間で通算92回、実施しました。

ABC出前授業

エビシー教室



たくさん感想が
寄せられています



ABC CSR活動報告2015

対象期間：2015年4月～2016年3月
発行年月：2016年5月
会社情報サイト：<http://corp.asahi.co.jp/>